

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	荻田 丈仁（22）	<p>1. 民間企業、各種団体等との官民連携による協働の推進強化について</p> <p>近年、官民連携の必要性が求められてきたが、企業内でも企業の社会的責任への意識が高まり、事業を通じて、またボランティアや寄附といった手段によって、利益の追求だけではない、地域の一員としての社会貢献が盛んに行われ始めているが、自治体と、民間企業や各種団体等が連携協定を締結し、それぞれの得意分野を生かして、地域の活性化や市民サービスの向上に貢献するための仕組みをつくっていく必要がある。</p> <p>現在、多くの自治体で市民サービスの向上や行政コスト削減、災害時での協力等々で官民連携が進んでいるが、市と民間とが、それぞれの特性や資源を生かし合って協力し補っていく官民協働を推進し、市単独で実施するよりも効果的な市民サービスを提供して、市民の生活をより一層安全で、豊かで便利にしていくことが求められている。既に富士市でも多くの包括協定や連携協定が締結されているが、特に包括協定では締結後の有効活用はもちろん、活用発信や活用提案が重要となっている。今後、連携協定の締結を進める上では、包括協定では担当課が多岐にわたり協定の管理や活用が見えない部分も多く、連携のメリットを最大限に生かす上でも責任を持って協定運営を推進する体制が求められる。また、本年、SDGs 未来都市となったが、SDGs の取組においても地方創生SDGs 官民連携プラットフォームが示されているので、さらに企業、団体等からの連携は活発化することが予想される。SDGs の視点からも、市として官民連携による協働等を積極的に推進するならば、一元的な管理や専属的に取り組むためのプロジェクトチームや推進室が必要となると考え、以下質問する。</p> <p>(1) 民間企業、各種団体等との包括協定や連携協定の締結をどのように考え取り組んでいるのか、また、現在の包括協定、連携協定の取組状況はどのようになっているのか。</p> <p>(2) 協定締結後の活用状況はどのように管理されているのか、また、協定先との連携は定期的に確認調整されているのか、また、今までの協定や新たな協定についても見える化はすべきことであるがいかがか。</p> <p>(3) SDGs 未来都市となった富士市として今後も官民連携を推進していく上では、協定等の取組や締結後の協定については円滑な運営や活用、またSDGs での考えを取り入れた仕組みも含め一元的管理運営が必要であるので、推進体制の強化を進める上でも官民連携プロジェクトチームか、できれば官民連携推進室を立ち上げて取り組むべきと思うがいかがか。</p> <p>2. 須津川溪谷の積極的な整備活用と新たなアクティビティ推進について</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	萩田 丈仁（22）	<p>大棚の滝を有する須津川溪谷は、愛鷹山系随一の景観を持つ富士市の誇るべき場所である。この須津川溪谷の整備活用は、かねてより議会、行政懇談会等で取り上げられてきた。平成28年には溪谷橋において、東海地区で初めて富士バンジーが運営され始め、国外や県外から多くの観光客が訪れる場所になっている。コロナ禍において自然回帰が見直され、自粛中のゴールデンウィークや夏の間も多くの人でにぎわっていた。ただ、かねてよりの問題点であったが、今回、にぎわったことで路上駐車や立ち入り禁止場所でのバーベキュー等、マナーの悪さが目立った。</p> <p>以前、議会や地域から、須津川溪谷を一元的な窓口で計画的に整備を推進していくことが要望され、平成27年に富士市須津川溪谷総合的整備計画を策定し、地域と協働の上、計画が推進されている。しかしながら、現況としては、計画があっても規制も厳しく、十分な整備や課題改善が進んでいるとは実感できない。平成27年の計画策定後、バンジージャンプが導入され、メディア等での注目度が上がり、さらなる整備の要望がされる中、富士市須津川溪谷総合的整備計画の見直しは必要と考える。また、令和2年3月の富士市観光基本計画の見直しでは、須津川溪谷を有力な観光資源と捉え、安全性の確保、自然環境の保全を行うとともに、誘客性を高めるための取組を推進し、バランスの取れた観光活用を目指すとしている。コロナ禍となり、新たな生活での観光施策として自然回帰が見直されている今、上位計画である観光基本計画の「施策6 観光インフラの整備」にある「観光スポットでの受入環境の向上」を図るとするならば、安全性を高めながら、大棚の滝周辺整備を積極的に進め、須津川溪谷での官民連携の成功モデルであるバンジージャンプ事業だけでなく、自然を利用したの魅力あるアクティビティの開発も取り組むべきと考える。</p> <p>今夏の須津川溪谷の状況を鑑みると、ウィズコロナ、アフターコロナでも期待できる、スポーツ合宿に訪れる若者や、インバウンド需要も含め、観光施策として重点的、また積極的な整備推進をするべき場所と思われるので、以下質問する。</p> <p>(1) 須津川溪谷の利用状況をどのように捉え、近年の利用状況での課題をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) 須津川溪谷の整備状況はどのようなものか。また、地域でも積極的な環境整備が求められているが、富士市須津川溪谷総合的整備計画の中で管理体制やロードマップを示すべきと思うがいかがか。</p> <p>(3) 須津川溪谷の魅力向上と観光施策に磨きをかけるため、メディアが注目し、人が呼べる成功事例であるバンジージャンプだけでなく、新たなアクティビティの開発——例えば、自然を生かした滝行、e-バイク、ジップライン、バーベキュー施設整備等々、検討すべきと思うがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長